

♪「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」♪



子どもと親と支援者の
音楽療法 プログラム♪

中身はこんな感じ♪
イラストや表入りで、視覚的にも理解できます。

電車がはしる

●目的 注意・集中・弁別・行動のコントロール

●対象者 1, 子ども 1人

●必要なもの ミニチュアの電車と線路の枱

●やりかた 1. 子どもは机に向かって着席。机の上にはそれぞれ線路の枱の電車を用意する。指導者は子どもから見えるところしたりキーボードを弾いたりする

●ポイント
身体全体の動きをコントロールするのが難しい子どもの場合、視界に入る平元の動きから始めると、うまくいく場合があります。電車が好きなら子どもも多いため、楽しみながらできます。
線路はブラーレールを使ったの、紙に書いてもらいます。自分で紙を切って線路に集中して手差し活動になります。はまったときに「りんごがはしる」と言ったり、止まることになったら「りんごがはしる」のスピードを遅くさせて子どもが電車の速度を合わせたり、「出発」「止まれ」の合図を子どもにしてもらったりして、練習度を上げていきます。けたり、自分が電車になって弾いたりして、コントロールする練習も取っています。

指導者	子ども
	電車を線路の上において合図を持つ
子どもが止まっているのを確認して「しゅっぱーつ!」と歌う	電車を線路の上で走らせる
「♪電車がはしる、電車がはしる、ガタゴトガタゴトトーン……!」と歌う	電車をストップさせる
「止まれ!」と歌う	

作曲の氏 → 山崎 隆

第1版・改訂版 15

「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」(春秋社)

監修：作田亮一

著者：二俣泉・鈴木涼子

定価：2,100円(税別)

発達障害(知的障害、自閉症スペクトラム障害)の子どもを対象に、「気づく」「眼差しの共有」「要求」「みわける・ききわける」「まねをする」など、具体的な目標をもった42の楽しいプログラムを紹介しています。

目次

はじめに

第1部 解説

- I. コミュニケーションの育ちと音楽
- II. 発達障害児への音楽療法
- III. コミュニケーションを育てる音楽療法プログラム
- IV. 発達障害について

第2部 活動集

- 気づく
- 眼差しの共有
- 要求
- みわける・ききわける
- まねをする
- その他

第3部 曲づくり・活動づくりのポイント

付録 伴奏の例

あとがき

監修は当センター長の作田亮一先生、著者は、音楽療法ジュバラントの開設から、現在もスーパーバイザーとしてお世話になっている二俣泉先生と、わたくし鈴木涼子です。

今まで音楽療法の現場で使用してきて、「これは使える!」と実感した活動(ききわけることを目的とした「休んでポン!」、要求を目的とした「お料理を作りましょう」などなど)を厳選して紹介しています。音楽の専門家ではなくても、すぐに実践できるような分かりやすい解説です。楽しく子どものコミュニケーション・スキルを育ててみませんか?是非一度お手にとってご覧ください。各書店や、出版元の春秋社、Amazonなどのネット通販でも購入できます。